

老人ホーム6人相次ぎ死亡

夜間対応施設長1人

鹿児島

鹿児島県鹿屋市の住宅型有料老人ホーム「風の舞」で、今月中旬までの約1カ月間に高齢の女性入居者6人が相次ぎ死亡していたことが21日、県などへの取材でわかった。ホーム側は医療面の対応は適切だった、と説明したが、介護職員が全員退職し、夜間は施設長1人で対応していた。県が調査を進めている。

「医療面は十分」

県などによると、今月上旬、市に「施設で死亡が相次いでいる」と通報があった。16日に県が老人福祉法、市は高齢者虐待防止法に基づき、立ち入り検査を行った。

同ホームは2012年に開設。死亡者が相次いだ当時は、高齢者約40人が入居していた。住宅型有料老人ホームは、外部の訪問看護や介護サービスを利用する



入所者6人が死亡した住宅型有料老人ホーム「風の舞」
21日、鹿児島県鹿屋市



のが前提。市によると、同ホームには、隣接する訪問介護事業所から介護職員が派遣されていた。その職員が今年8〜9月にかけて全員退職したため、日中は系列施設から派遣された看護師が、夜間は同ホームの施設長が1人で対応していたという。

野力院長らが開いた記者会見によれば、死亡した6人は85〜97歳の女性。死因は老衰2人、消化管出血、腎不全、心不全、誤嚥による窒息が各1人。3日間のうちに4人が死亡した。6人のうち5人が点滴で栄養補給をしていたという。死亡

介護職員が全員退職

「医療サービスの不十分さは全くない」
波江野力院長は21日、波江野満施設長と開いた記者会見で言い切った。

診断書はすべて、医師の波江野院長が書いたという。会見で「人員が減り、サポートができなくなったという点では適正ではなかったが医療面に関しては十分」と説明。職員の1斉退職や夜間の1人態勢と死亡との関係を否定した。(大崎浩義)

「一方、介助などを担っていた8人の介護職員全員が8〜9月に辞めたことも認め、夜間の対応を施設長1人で行っていたことを明かした。「適正かと言われれば、適正ではなかったかもしれない。人がいないわけですから」と語った。

現在は、看護師4人が交代で昼の介護を代行しているという。院長は「入所者の医療面については、医者と看護師が24時間呼び出しに対応できる状態で、これだけやっていて文句を言われる筋合いはない」と話す一方、介護面は「色々サポートできるのが、できなく

朝日(鹿児島)